

第1回会議における主な意見

学力・健康・体力について

いわゆる「ゆとり教育」に基づいた学力観が大切。

最近の新入社員は、基礎能力は高いが、対応力・応用力がない。

自分で考え、やり抜くといったことが学校教育の中で教えられてない。

市民にとって教育イコール学力向上を指している。

子どもの成長には遊びが必要である。

学校保健の問題として、性教育に対する重点的な教育が必要。

子どもの生活リズムづくりの教育や啓発が必要。

生活習慣の乱れから男子は肥満が増えており、女子は、思春期の痩せが問題になっている。

子どもの生きる力、育つ力、育とうとする力を育てることが大切。

幼保の連携、幼保小の連携を図りながら幼児期を育成し、小学校に送り出すことが必要。

子どもの特性について

企業では、グローバル化など社会状況に対応していくために、いろいろな目線を持った人材が必要。

職の能力を身につけた子どもを育てることが大切。

画一的な教育ではなく、子どもが持っている良いものを伸ばすことが大切。

学校・教員について

学校は、外部評価等をもって襟を正す姿勢が大切。

教員の子どもと向き合う時間の確保が必要。

教育困難校への対応が放置されている。

教育の方針に関し、変更のサイクルが短いと教員が本来持っている力が発揮できない。

学校における業務のダイエット化の推進。

学校が教育活動に専念できる体制の確立。

教員には、「教える」だけでなく、「育てる」という気持ちも大切。

指導力だけでなく、規範意識・社会常識が不足している管理職を含めた教職員の資質向上。

学校が抱える課題解決には、教職員の意欲・情熱・指導力等の発揮が必要。

家庭・地域について

学校任せの体質改善。

保護者の物事の考え方や、物へのこだわりの価値観が変化している。

中学生の保護者のPTA活動等への意識が希薄。

いじめなど、何か起きたときに、わが子のことのように考える保護者の育成。

学校に理不尽な要求をする保護者の増加。

子どもの心が見えていない親の増加。

親は子どもを産んだらしつけをするなどの責任を果たさないといけない。

駄目な親と決めつけずに、かかわり続けていくことの必要性。

子どもたちが主体となった活動ができる場を大人が保証してやるのが大切。

地域社会が共同体であるという意識が希薄化している。

政令指定都市である北九州市の場合、地域コミュニティをどれぐらいのレベルで立ち上げていくかを考える必要がある。

時間的な制約や安全な遊び場が少ないため子どもが放課後に遊んでない。

子どもの育ちには、地域の方や年長者などの支援が必要。

子どもを中心に据えて、家庭や学校、地域がその役割を十分果たせるような環境整備が必要。

心の育ち(規範意識・健全育成を含む)について

人間関係能力、コミュニケーション能力、一般の社会常識、規範意識、あるいは礼儀、目上に対する言葉遣い、態度といった素養を身につけなければならない。

最近の子どもは、異年齢の集団の中での経験 家庭や地域の中で自分の役割を果たすという経験 自然の中で思い切り遊ぶという経験が不足している。

生活体験をすることで、責任感や協調性が培われ、危険回避や社会のルールが体得できる。

学校では社会性を身につけてくるのが大切。

現在の教育は、知育・体育が優先され、徳育が軽視されている。

大人の規範意識・社会性の欠如が子どもに現れている。

就学前の子どもが小学校、中学校へいかにスムーズに上がっていくかという

ことが大切。

非行を犯した少年を抱え苦しんでいる家庭への支援が必要。

保護者の子どもに対する保護、指導ができていない。

保護者の愛情の希薄化がキレる子どもにつながっている。

特別支援教育について

少子化やライフスタイルの多様化により、子どもが悩みを抱えるようになってきているが、それを親が気付いていない。

通常の学級に6.3%いると言われている特別な支援が必要な子ども一人ひとりの実態に応じて、社会参加・自立できるようなシステムが必要。

その他の意見

教育現場に刺激を与えるべきとの考え方から、教育界のことを理解してもらうという考え方に変わってきた。

教員と保護者が同じ思いで子どもに接しなければならない。

手厚い子育て支援策が、子どもと親の関わりを妨げ、結果として様々な問題を起こしている。

子どもたちが本来持っている力は弱まってない。

子どもたちは地域や家庭から見放されている状況にある。

学力、体力については、何のために学力なのか、何のために体力なのかを明確にすべき。

文化芸術への視点が必要。

委員間の課題の共有化を図ることが重要。

意見が対立する場合は、それぞれの視点を大切にし、両論併記もありうる。

教育委員会と関係部局との連携が必要

教育は、方針を頻繁に変えないことが重要。